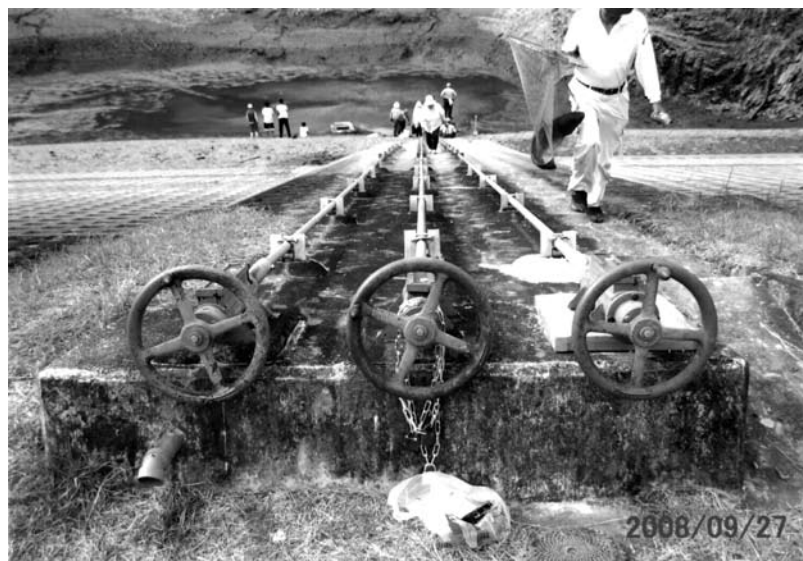


農地・水・環境保全向上対策の取り組み事例紹介

292号に続き、上菅環境保全協議会と八上環境保全組合より取り組みの登稿がありましたので紹介します。
また稲生農地・水・環境を守る会の「ひまわり・コスモスまつり」に参加しましたので合わせて紹介します。

池干しとブラックバスなど駆除

上菅環境保全協議会(多気郡大台町)



大台町上菅の中沖池(1.2ha)で9月27日に、環境保全向上の一環として、ため池の整備を兼ねて池干しを行った。

当日は、なでしこ会(非農家)農家、児童ら約50名が参加した。

ため池は平成2年に大改修が行われて以来18年経過しており池底の汚れが心配されたが、思ったより汚れが少なく、のみ(開栓機)のペンキ塗り替えと池底の古木の撤去などを行い、作業は午前中に終了しました。

並行して特定外来生物に指定されている、ブラックバスの駆除を実施した。

ため池は10数年前から一部の釣り愛好者らによるとみられる、法律で禁じられている、ブラックバスやブルーギル等の外来魚の放流が増え、コイ、フナ、などの在来魚が激変している。今回は約一週間かけて水ぬきを行い、地引き綱と、たも網を使い、ブラックバス、約2000匹の駆除を行った。コイとフナは約100匹を保護して、参加者によるたも網とバケツリレーにより堰堤をかけ上がり中継して別のプールに移動して、後日、無事に池に戻すことができました。

今後はコイ、フナ、など外来魚の保護を行い、昔のような水辺でコイが見られる自然のため池に戻して、池の景観向上に取り組むことを申し合わせました。

又、最後には子供から親まで、外来魚の放流禁止を周知徹底することをお願いして終了致しました。

19年度から20年度にかけての活動報告

八上環境保全組合(津市白山町)

私たちの組織は、青山高原の麓中山間地域に位置しほ場整備は完了しておりますが、リタイア農家等が年々増加、更には高齢化が進む中で、地域の大切な農地と農業を守って行く為に水田、水路、ため池等の環境保全などについて、農業者と地域住民をはじめ多様な主体が参画し、水田の有効活用を行うことにより水田農業の持つ多目的機能を発揮

するよう自然環境保全活動に取り組んでおります。

農村環境向上活動の取り組み内容の内、景観形成・生活環境保全の普及・啓発活動については、水田は日本人の主食である米生産手段であるとともに、国土の保全、自然環境の維持の面で、さまざまな役割をもっていることを示すパネル等を作成し、地区文化祭等で照会し理解を求めている

る。又、実践活動として平成19年度は、畦畔に「紫陽花」の植栽、農道と水路の法面に「河津桜」の植栽、平成20年度は各自治会内の休耕田に「コスモス」栽培する等の活動に取り組んでいる。



平成19年度 文化祭でのパネル展示



平成20年度 コスモスによる景観形成

第2回 稲生のヒマワリ・コスモス祭り 開催

稲生農地・水・環境を守る会(鈴鹿市稲生地域)



会場の様子

去る10月18日(土)鈴鹿市稲生地域において、稲生農地・水・環境を守る会主催で「第2回稲生のヒマワリ・コスモス祭り」が行われた。

当日は、澄み渡る青空の下、家族連れ、友達どうしなどの地域住民約300人が訪れ、賑わいをみせていた。

会場では農地・水・環境保全活動の景観形成、環境保全、学校教育との連携、施設の点検等の活動状況を写真パネルが展示され、訪れた人々は興味深く見入っていた。

周辺の休耕田一面にはヒマワリ、コスモスが鮮やかに咲き、それに併せて写生大会やフォトコンテストも行われた。

特にフォトコンテストでは、いろいろな場所からアングルを探し、腕を競っていた。

昼には、地元稲生で収穫されたコシヒカリで作られたおにぎりやカレーライス等も振る舞われ、楽しいひとときを過ごしていた。

主催者は、ヒマワリの種から食用油の搾油やバイオディーゼル燃料の精製も計画しており、まだあまり知られていないことなので、どれくらい搾油できるか期待し、さらに、このようなイベントを通じ地域住民が益々、農地・水・環境保全活動に関心を寄せ、今後の更なる活動へと発展させていきたいと抱負を述べた。



親子でお気に入りのひまわりの収穫



活動内容のパネル展示に見入る参加者

農地・水・環境保全向上対策についての情報等は、水土里ネットみえのホームページをご覧ください。
(<http://www.miedoren.or.jp/index.html>)